

## ■人族PCα 「平和を望む者」個別設定

きみは、魔域帝国の攻撃によって、“奈落の魔域”に呑み込まれた辺境の城塞都市、バルザークの住人だ。

きみがどんな種族で、どんな生い立ちであったとしても、この町の人々は温かく受け入れてくれた。そしてきみは、いまやバルザークに残された、数少ない戦う力を持つ者だった。だからどうにかして、〈奈落の核〉<sup>アビスコア</sup>を破壊し、バルザークを救いたいと考えている。

**推奨技能：**戦士系＋スカウト or レンジャー

**推奨サンプルキャラクター**

ラルヴァの戦士(⇒15頁)

or アビスボーンの拳闘士(⇒『RL』32頁、36頁)

.....(山折り).....

## ●きみの葛藤

それは、約1ヶ月前のことだ。

城塞都市バルザークが“奈落の魔域”に呑み込まれ、毎日のように襲ってくる魔神との戦いに疲弊しきっていたとき。

ドレイクの少女——エリンターナ・シェフティ(ドレイク／女／14歳)率いる蛮族の一団が現れ、魔神たちを蹴散らし、町を守ってくれた。

だがその後の戦いの中、バルザーク防衛の指導者であり、常日頃なにかときみをサポートしてくれていた、錬金戦士ザイド(人間／男／44歳)が行方不明となった。

行方不明になったのは、1週間ほど前。ザイドがどこへ行ったのか目撃した者はおらず、生死も不明だ。蛮族が城塞都市バルザークを乗っ取るため、戦いの最中にザイドを殺したのだ、という者もいるが、その証拠はひとつもない。ザイドは左頬にある×の字状の傷を利用してティダンの紋章を刺青しており、死体を見ればすぐにわかるはずだ。

ザイドが行方不明になった後も、エリンターナは蛮族を率いて町を守るために戦い、生き残るために人族と蛮族は共闘するようになった。人族の戦力は消耗を続けており、もはや蛮族の力なくして、バルザークは1日と保たないだろう。

昨夜、見張りに立っていたきみは、そんな戦況にもかかわらず、エリンターナが北門を飛び越え、いずこかへ消えるのを目撃した。ちらりと見えたその目はうつろで、まるで夢を見ているかのようだった。

将がいなくなった蛮族は、暴れ出すかもしれない。それどころか、エリンターナは裏切って、ひとり逃げたのかもしれない。

きみは彼女を追い、その真意を確かめたいと考えていた。

**目的：**ドレイクの姫君エリンターナと再会する。